

りそな外為レポート

りそな WEEKLY COLUMN

りそな外為レポート

メイちゃんに叱られる Don't sleep through life !

(P2)

チーフカスタマーディーラー
井口慶一

来週のドル円予想レンジ **110.00 ~ 112.00**

りそなWEEKLY COLUMN

10連休とフラッシュクラッシュ(P3)

チーフストラテジスト
梶田伸介

- フラッシュ・クラッシュはマーケットが不安定な局面で発生しやすい
- 日本の10連休はイベントも多く、フラッシュ・クラッシュが警戒されるが、押し目買いや戻り売りのチャンスとも捉えたい

2019/4/1

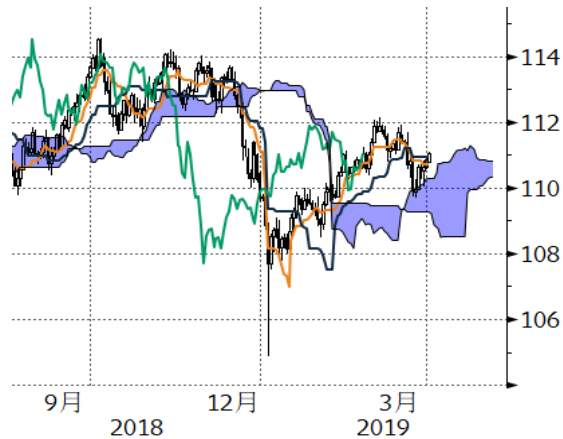
りそな外為レポート

メイちゃんに叱られる Don't sleep through life!

今週のドル円予想レンジ **110.00 ~ 112.00**

(りそな銀行市場トレーディング室予想 1日10時時点)

◆ドル円一目均衡表 (日足)



◆為替相場のすすめ

【メイちゃんに叱られる Don't sleep through life!】

英国のEU離脱期限の4月12日への延期が決定した。3月29日の「合意無き離脱」を回避してまずは一安心だが、未だ先行きは不透明なまま。EU離脱をどう決着するのか。「今こそすべての英国議員に問います」とメイ首相は自身のEU離脱案に代わる複数案への「人気投票」を27日に実施したが、全て過半数割れし混迷を極めている。

「合意無き離脱」をしたらどうなるのか。そんなことも知らずに、やれ「EUと関係が近い離脱」だとか、「2回目の国民投票」などと言っている英国議員のなんと多いことか。でもマーケットは知っています。「合意無き離脱」になったらポンドを売ればいいだけ。ただそれだけ。

悪材料は目立つもののリスクへの耐久性は高まっている印象。4月は株が買われやすいアノマリーがある他、新年度入りの外債投資資金の流入期待もある。今週はISM製造業景気指数などの米重要経済指標が予想を上回る公算。ドル円は押し目買いで臨みたい。ポーっと生きていては勝ち残れない。

チーフカスタマーディーラー 井口慶一 (5さい)

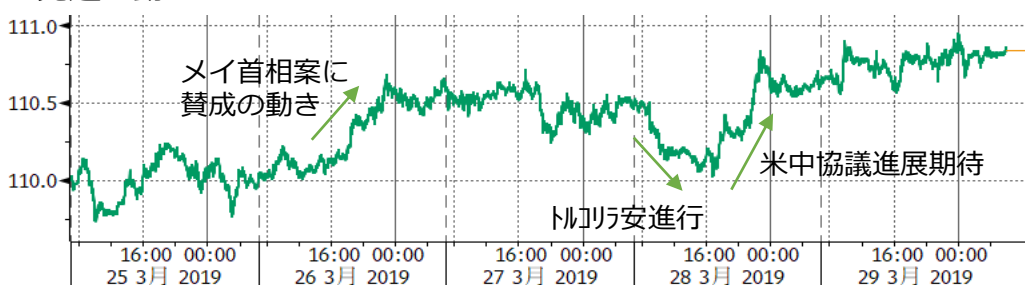
◆今週の日程

1日 (月)	日	3月調査日銀短観	2日 (火)	米	2月耐久財受注
1日 (月)	米	2月小売売上高	3日 (水)	米	3月ISM非製造業
1日 (月)	米	3月ISM製造業	3日 (水)	他	米中閣僚協議
1日 (月)	米	2月建設支出	5日 (金)	日	2月景気動向指数
1日 (月)	欧	3月CPI	5日 (金)	米	3月雇用統計

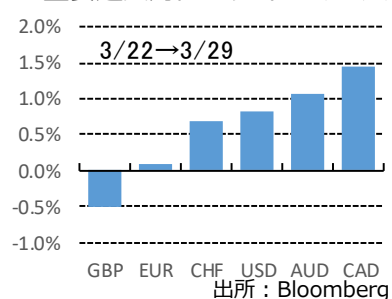
◆今週の予想 (ドル高 強い ↑ 普通 ↑ ドル安 強い ↓ 普通 ↓) NY引け値 29日(金) 110.86円 VS 5日(金)

東京										大阪			埼玉				
尾	中	井	鳥	田	関	藏	加	佐	小	村	鈴	武	野	小	津	石	伊
股	根	口	井	中	口	重	藤	藤	池	永	木	富	瀬	林	田	井	藤
↑	↓	↑	↑	↑	↑	↓	↑	↓	↑	↑	↓	↑	↑	↑	↓	シンガポール 研修中	↑

◆先週の動き



主要通貨対円パフォーマンス



◎注意事項
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

2019/4/1

りそな WEEKLY COLUMN

10連休とフラッシュ・クラッシュ

- フラッシュ・クラッシュはマーケットが不安定な局面で発生しやすい
- 日本の10連休はイベントも多く、フラッシュ・クラッシュが警戒されるが、押し目買いや戻り売りのチャンスとも捉えたい

チーフストラテジスト 梶田伸介

年初の円急伸の動きと豪中銀の分析

年初1/3は東京時間の朝方にドル円が108円半ばの水準から105円を割り込む水準まで一気に急落した。お正月気分が吹き飛ば、時間にしてわずかに1分程度の動きであった。いわゆるフラッシュ・クラッシュ（瞬間的な暴落）現象である。

豪中銀はこの背景を①ポジションの偏り②商いの薄い時間帯③アルゴリズム取引（プログラムによる自動取引）の増加と分析している。高水準の円キャリー取引（円を借りて調達して外貨で運用する）のポジションが、東京休場の商いの薄い時間帯に、アルゴリズム取引を通じて一気に巻き戻されたとの見立てである。

出所:Statement on Monetary Policy Feb2019

過去のフラッシュ・クラッシュ局面

下表は主な過去のフラッシュ・クラッシュの局面をまとめたものである。豪中銀の分析にある通り、ポジションの偏りや商いの薄い時間帯というのは重要なキーワードと言える。同時に過去の局面では、米国株の変動率（VIX指数）が高水準であったことも注目される。VIX指数は別名「恐怖指数」とも言われており、市場の不安心理の状況を映し出している。20を割り込んでいれば概ね金融市場は落ち着いているとみなせるが、過去の局面では20を超えているケースが多かった。フラッシュ・クラッシュを誘発しやすい環境としてVIX指数が高水準ということも重要な要素と言える。

今年1月と主な過去のフラッシュ・クラッシュ局面

出所：各種報道、Bloomberg

日付	商品	前日 VIX	開始	ボトム	終了	変化幅	東京時間	時間	背景
2019 1/3	ドル円 (\$/¥)	23.22	108.56	104.87	106.86	▲3.5%	7:30~ 7:45	15分	日本休日 八行が決算下振れ
(ご参考) 過去のフラッシュクラッシュ									
2010 5/6	米国株式 (Pt)	24.91	1,136	1,066	1,133	▲6.2%	3:30~ 4:10	40分	欧州危機警戒 アルゴリズム
2014 10/15	米10年債 (%)	22.79	2.16	1.86	2.06	▲0.29%	21:30~ 23:00	90分	米指標下振れ B/S縮小警戒
2016 10/7	ポンド (£/\$)	12.84	1.26	1.18	1.24	▲6%	8:10~ 8:20	10分	中国休日 ポンド売り高水準

◎注意事項
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

2019/4/1

りそな WEEKLY COLUMN

10連休のフラッシュ・クラッシュリスク

今年の5月は新天皇の即位に伴う10連休を控えている。本邦勢が休暇中の商いの薄い時間帯に突発的なニュースがあれば、年初のようなフラッシュ・クラッシュが起きることが警戒される。この10日間は重要なイベントも多く、4/28スペイン総選挙、4/30-5/1 FOMC、5/3 雇用統計と続く。米国の企業決算動向も焦点となる。

また、足もとは落ち着いているVIX指数が10連休にかけて、どのような動きとなるかも重要な要素である。政治面で米中協議、米国のトランプ大統領と民主党の対立、欧州のポピュリズム政党の台頭等、マーケットが再度不安定化する火種は残っている。

2014年の経験

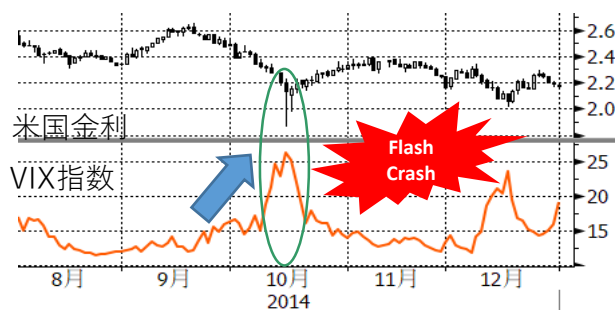
私は2014年10月15日のフラッシュ・クラッシュにディーラーとして遭遇した。日本時間の21時30分公表の小売売上高やNY連銀景況指数が大きく下振れ、金利が急低下。米国の10年金利は2.15%の水準から1時間程度で一気に0.30%近く低下し、再度0.20%近く金利は上昇。

金利上昇に賭けたポジションであったために、敢え無くロスカット。この指標でここまで金利低下するかとの違和感があったものの、結局、金利急低下局面とその後の反動局面をただ指を咥えて見るしかない状態であった。後で振り返れば絶好の金利上昇ポジション構築のチャンスであったが、悔しい思いだけが残された。

フラッシュ・クラッシュに備えて

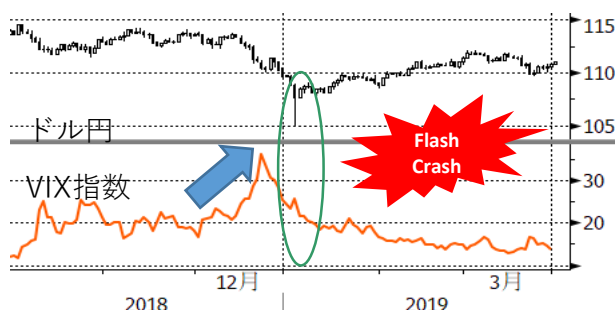
重要なのは、いざというときに頭が真っ白とならないようにシミュレーションをしておくことであろう。フラッシュ・クラッシュは基本的に一瞬のことであり、長続きするものではない。見方によれば、ターゲットで淡々とポジションなり、ヘッジの動きを取る向きには絶好の押し目買いや戻り売りの場を提供するチャンスと捉えることもできる。「備えあれば憂いなし」であり、せっかくの10連休を楽しみたいものである。尤も市場関係者が備えれば備えるほど、マーケットが動かなくなる可能性が高まるというのは皮肉な事実であろう。

2014年米国債



出所：Bloomberg

2019年ドル円



出所：Bloomberg

◎注意事項
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていないと否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。